

小栗上野介忠順－開国・近代化の先覚者 関連資料リスト

本館所蔵の小栗上野介関連資料の一部を展示します。

展示期間：平成24年2月24日～平成24年4月30日

群馬県立図書館 調査相談室

小栗上野介忠順（おぐりこうずけのすけただまさ）略歴 文政10年（1827）～慶応4年（1868）

徳川家臣として由緒ある旗本の家系（神田駿河台）に生まれ、幼名を剛太郎、長じて忠順、又一と称す。文武両道に傑出し、議論を好む。大老井伊直弼の抜擢で本丸目付となり、万延元年（1860）33歳の時、日米修好通商条約批准のため遣米使節の監察として米軍艦ポーハタン号で渡米。海軍造船所の見学や日米通貨の分析試験の提案など、訪問先での質問は核心を突き、重要な決定は全て小栗の同意の下になされ、論理的で威厳と知性を備えた中心人物として米国でも一目置かれた。帰国後は外国、勘定、軍艦などの奉行を歴任。勘定奉行の時、上野介の官名を賜る。日本近代化の第一歩として横須賀造船所の建設に奔走。小栗の構想はこの他、日本初の株式会社兵庫商社の設立建議、フランス語学校の設置、郵便制度や鉄道建設の提唱、新聞発行や郡県制度の提唱など様々な分野におよび、後に大隈重信は「明治政府の近代化政策は小栗忠順の模倣にすぎない」と語っている。薩長と幕府との対立が激化し、鳥羽・伏見の戦いの後、江戸城大評定で主戦論を唱えたが罷免され、小栗家伝来の知行地である権田村（現：高崎市倉渕町権田）への土着願を出し、東善寺を仮住まいとした。村人との絆は深く、用水の測量や人材の育成など土着の夢を結び始めたが、上野介の動向を危険な兆候とする西軍の監視の中、東山道総督府から追討令が下り、烏川の水沼河原で罪なくして斬首される。国難の動乱期に日本の将来を見通した先覚者の非業の死と偉大な功績を惜しむ声は年々高まり、外国とも堂々と渡り合った外交や財政の手腕が、今見直されている。

【図書】（書名 著者名 出版者 出版年 請求記号 貸出用有に○）

- 『上毛及上毛人』豊国義孝編 上毛郷土史研究会 大正期刊の復刻版 上毛新聞社 K005 J69.3 ○
(6)号 p.42-43 小栗上野介の五十年祭、(7) p.24-30 横須賀開港五十年祝典に際して小栗上野介の為に一言す 豊国覚堂、(13)-(14)号 横須賀海軍工廠と小栗上野介(上)(下)、(58)-(70) 小栗上野介忠順 一～十一 早川珪村、(65) p.52-53 小栗上野介胸像建設、(67) p.50 小栗上野介胸像除幕式、(84) 小栗上野介父子主従の墓、其寓居せし東善寺の客間、小栗氏の邸宅を建設し始めた観音山全景写真銅板、p.2-6 小栗氏父子功罪の弁 豊国覚堂、p.51-55 小栗上野介遺蹟搜訪記（観音 山上首級を埋めし印の松、小栗氏の遺物、其胴体を埋めし処の碑） 豊国覚堂、(85) p.1 総選挙に直面して小栗父子功罪の弁に就て亦快ならずとせず 豊国覚堂、(86) p.1-2 小栗上野介の冤罪は雪がれ申候 小栗貞雄、(91) p.52-53 小栗上野介の縁家が伊勢崎に在り、(93)-(98) 小栗家に関する記録 一～六 小栗信義、(95) p.62 那翁三世の文書 小栗上野介宛、(117) p.44-45 小栗上野介遺蹟と館長ヶ崎の命名 鶴淵蛍光、(130) p.27-29 小栗上野介に就て 蜷川新、(134) 口絵 米国へ始めて派遣されし使節小栗上州の一行、p.1-2 人傑小栗上州 中村孝也、(135) p.1-2 中村博士の「小栗上州評」を読み 蜷川新、(139) 口絵横須賀公園に建設せし小栗上野介胸像除幕式の光景 写真銅版、p.14-22 小栗上野介の真面目 小栗貞雄、p.60-61 維新後の政争と小栗上野の死、(140) 口絵 小栗上野介父君の墓所と大隈伯夫妻等、p.7-8 小栗上州の贈位漏れに就て 豊国覚堂、p.9 大森知事と小栗上州と高山先生 豊国覚堂、p.11-13 幕末の偉人『小栗上野介』（蜷川博士の新著）花見朔巳、p.13-16 小栗上野介と大隈伯夫人（新潟新聞所載）、(148) p.63 群馬会館を飾る新田公銅像 更に高山先生と小栗上州の胸像、(152) p.38-40 小栗家由緒書の本末、p.56 小栗上野介の遺児小栗国子夫人の喪発せらる、(153) p.64-67 小栗父子の墓所に就て 早川圭村、(158) 口絵 高山・小栗両偉人銅像拓本 写真銅版、p.45-46 高山・小栗両偉人の銅像成る 篠原上毛新聞社長寄贈、(170) p.61-62 続維新前後の政争と小栗上野 蜷川博士の近業、(171) p.47 小栗家先祖の墓所 武州大宮在の普門院、(177) p.71 小栗上野介碑 烏淵村に建立、(182) p.50-51 小栗上野介記念碑 烏川畔水沼河原に建設、(185) p.51 小栗対西郷論 三上義夫、(186) 口絵 小栗国子夫人と令孫、(186)-(193) みどりの跡 一～八 小栗貞雄、(187) p.66 下村紅雲翁の小栗崇拜、(193) p.48 小栗家の墓地、(204) p.59 小栗上野介六十七年祭、(211) p.38-44 小栗上野介と吾妻郡 新井信示、(212) p.40-44 遣米使節小栗豊後守の随員 佐藤藤七の世界一周記を発見 新井信示、(213) p.58 小栗上州の招魂碑 武州大宮在の普門院に建設、(217) p.59-60 小栗貞雄氏逝去 上野介小栗忠順の後嗣 豊国覚堂、p.66 小栗上野介碑前の追弔会 四月七日烏河原で、(220) p.54-57 緑の地平大宮行…岡田首相と小栗上野介 小栗又一、p.59 小栗上州の墓へ岡田首相床次通相等参拝、p.61-62 小栗上州の首級所在地に就て 豊国覚堂、(223) p.7 小栗上州の慰霊祭 小栗又一、p.75 小栗上州の碑流失、(225) p.72 小栗上州碑流失 市川亭三郎、(242) 東善寺の炎上 小栗上野介の遺跡(奥附上)、(243) 小栗氏の近信(目次上)、(244) p.64 小栗上州の首級問題 動かぬ公文書発見、(270) p.3-6 我国最初の遣米使節 小栗上野介の航海日誌(高橋真道氏所蔵)、(279) p.8 小栗上野介遺徳顕揚会 和歌(石原)
- 『群馬県史料集 第7巻 小栗日記』山田武磨編 群馬県文化事業振興会 K008.1 G94 (7) ○
- 『群馬県百科事典』上毛新聞社編 上毛新聞社 1979 K030 G94 ○ p.144 小栗上野介忠順
- 『群馬県新百科事典』上毛新聞社編 上毛新聞社 2008 K030 +83 ○ p.114 小栗上野介忠順
- 『その時歴史が動いた 18』NHK取材班編 KTC中央出版 210.04 =09 (18) ○
p.160-205 改革に散った最後の幕臣 小栗上野介 一本のねじから日本の近代は始まった
- 『徳川300年を動かした男たち』（別冊歴史読本45）新人物往来社 1996 210.5 +64 ○
p.64-73 二つの政治路線 小栗忠順と勝海舟 石井孝
- 『幕末 非運の人びと』有隣新書 石井孝著 有隣堂 210.58 ㊦9X ○
p.188-222 悲劇の「徳川絶対主義」設計者 小栗忠順

- 『幕臣列伝』 綱淵謙錠著 中央公論社 210.58 卜13 ○ p.187-209 小栗上野介
- 『幕末政治家』 東洋文庫 福地源一郎著 平凡社 210.58 卜95 ○ p.271-274 小栗上野介
- 『幕末・明治・大正古写真帖 よみがえる近代日本の原風景』 別冊歴史読本 新人物往来社 210.58 ㄨ28 ○ p.6-7 古写真でよみがえる大君の使節団 遣米使節
- 『万延元年第一遣米使節日記』 日米協会 210.59 ㄖ7Y ○ p.33-35 小栗豊後守忠順略伝
- 『世界を見た幕末維新の英雄たち 咸臨丸から岩倉使節団まで』 別冊歴史読本 新人物往来社 210.59 ㄨ74 ○ p.30 万延元年幕府遣米使節団 p.40 小栗忠順
- 『海を渡った侍たち』 石川栄吉著 読売新聞社 210.595 ㄖ76 ○
- 『万延元年の遣米使節団』 宮永孝[著] 講談社 210.595 ㄨ53 ○
- 『懐往事談 幕末政治家』(幕末維新史料叢書8)福地源一郎[著] 人物往来社 1968 210.6 B15 (8) ○ p.31-32 幕府の遣米使節
- 『「明治」という国家』 司馬遼太郎著 日本放送出版協会 210.6 卜99 ○ p.28-54 徳川国家からの遺産
- 『北関東会津戊辰戦争』 島遼伍著 宇都宮 随想舎 2004 210.61 ㄨ46 ○ p.101-105 近代日本の布石を敷いたマルチ官僚 小栗上野介、p.106-110 冤罪に散った四十二年の生涯 小栗処刑
- 『躍進群馬県誌』 栗原新水著 躍進群馬県誌編纂所 1940 K211 Ku61 p.92-95 小栗上野介の事ども
- 『躍進群馬県誌』 栗原新水著 躍進群馬県誌編纂所 1955 K211 Ku61 (5) p.577 小栗上野介忠順
- 『伝えたいふるさとの100話』 地域活性化センター編集 地域活性化センター 2004 K211 ㄨ42 ○ p.52-53 鉄の国アメリカを見て近代化への道を開く 小栗上野介 群馬県(倉淵村)
- 『ヨコスカ開国物語』 山本詔一著 神奈川新聞社 2003 213.7 ㄨ34 ○ p.76-77 小栗登場、p.82-83 造船所建設
- 『群馬県群馬郡誌』 下巻 群馬県群馬郡教育会編 限定版 名著出版 1972 K241 G94 2(2) ○ p.1242 小栗上野介父子主従の墓(倉田村)、1460-1467 小栗上野介(倉田村)
- 『倉淵村誌』 倉淵村誌編集委員会編 1975 K241 Ku51 ○ p.230 小栗騒動、小栗上野介と倉淵村、p.230-236 小栗上野介の系譜と生き立ち、p.236-238 徳川幕府の終末と小栗上野介、p.238-240 権田村へ隠棲、p.240-244 暴徒を撃退、p.245-246 小栗日記、p.249-252 権田村での生活、p.252-258 小栗追討軍、p.258-263 上野介罪なくして斬らる、p.263-265 嗣子栗又一の最期、p.264 小栗父子の首級館林へ、p.265-272 官軍の小栗所持品押収と事後処理、p.271 小栗の所持金余聞、p.272-274 小栗父子の首級権田へ、p.274-276 小栗夫人の権田脱出とその後の小栗家、p.1169-1187 佐藤藤七の渡海日記、p.1212 小栗上野介関係資料、1 権田村某氏の保有文書、2 非凡の開明派小栗上の介
- 『新編高崎市史』 通史編 3 近世 高崎市史編さん委員会編 高崎市 2004 K242 ㄖ43 (3) ○ p.842,844 小栗上野介権田村に土着 p.851-852 「小栗征伐」と高崎藩
- 『海を渡った幕末明治の上州人』(みやま文庫104) 萩原進編 みやま文庫 1987 K281 卜73 ○ p.58-72 小栗忠順と同行者たち 市川光一
- 『日本の首塚』 遠藤秀男著 雄山閣出版 281.02 E59 ○ p.316-325 小栗上野介 徳川最後の臣
- 『夕陽を知らぬ男たち 彼らはいかに生きたか』 小島直記著 旺文社 281.04 卜32 ○ p.15-20 小栗忠順 日仏合弁会社のプランナー ースケールの大きな幕臣
- 『幕末日本を救った「先見力と胆識」』 新井喜美夫著 281.04 ㄖ26 ○
- 『郷土歴史人物事典群馬』 萩原進著 第一法規 1978.1 K281.3 H14 ○ p.88 小栗忠順
- 『上州の顔 歳時記』 [東京新聞編] 東京新聞前橋支局 1981.12 K281.3 卜1Z ○ p.70 小栗忠順
- 『群馬県人名大事典』 [上毛新聞社編] 上毛新聞社 1982.11 K281.3 ㄖ2Y ○ p.614 小栗上野介忠順
- 『群馬県先哲偉人伝』 群馬県国民精神総動員事務局編 1940 K281.4 G94 ○ p.54-55 小栗上野介
- 『郷土に光をかかげた人々 2巻』 群馬県教育委員会編 群馬県教育委員会 K281.4 卜53 (2) ○
- 『群馬県を築いた人びと』(郷土を築いた人びとシリーズ) 群馬県小中学校教育研究会社会科部編 旺文社 1986 K281.4 卜69 ○ p.130-133 徳川幕府を最後まで支えた幕臣 小栗忠順
- 『群馬の肖像 顔は歴史を語る』 群馬県立歴史博物館編 群馬県立歴史博物館 2004 K289 ㄨ41 (1) ○ p.13 小栗上野介忠順
- 『小栗上野介忠順公を憶ふ』 市川亭三郎講述者 上毛郷土史研究会 K289 026 ㄖ76
- 『小栗上野介 忘れられた悲劇の幕臣』(平凡社新書561) 村上泰賢著 平凡社 2010 K289.1 O26 ㄖ0Z ○
- 『幕末維新人物100話』 泉秀樹著 立風書房 1987 K289.21 O61 卜75 p.171 小栗忠順 誤解された財政官僚
- 『わたしの歴史散歩』 三津間弘著 上毛新聞社出版局 1994 K289.22 Mi56 ㄖ4Y ○ p.99-147 私論 小栗上野介、p.148-163 大変革期の間人像—小栗と勝、p.164-187 小栗上野介を語る
- 『開国の先覚者小栗上野介』 千代田書院 K289.41 026
- 『たつなみ』第1号～第35号 顕彰会機関誌 小栗上野介顕彰会編 K289.41 026 4(1)－4(35) ○

- 『維新前後の政争と小栗上野の死』 蜷川新著 日本書院 K289.41 026 ㊦8X-1 ○
- 『維新前後の政争と小栗上野 続』 蜷川新著 日本書院 K289.41 026 ㊦8X-2 ○
- 『仏蘭西公使ロセスと小栗上野介 幕末経済秘史』 神長倉真民著 ダイヤモンド出版 K289.41 026 ㊦56
- 『小栗上野介忠順家系及略年譜』 大坪元治編纂 小栗上州公顕彰後援会 K289.41 026 ㊦34
- 『まぼろしの寺』 秋山喜久夫著 丸岡書店 K289.41 026 ㊦46
- 『小栗上野介の生涯 「兵庫商社」を創った最後の幕臣』 坂本藤良著 講談社 K289.41 026 ㊦79 ○
- 『小栗上野介忠順 その謎の人物の生と死』 矢島ひろ明著 群馬出版センター K289.41 026 ㊦2X
- 『小栗上野介 幕末開明の人』 市川光一著 高崎財務事務所 K289.41 026 ㊦43 ○
- 『幕末開明の人 小栗上野介』 市川光一著 東善寺 K289.41 026 ㊦4X ○
- 『上州権田村の驟雨 小栗上野介の生涯』 星亮一著 教育書籍 K289.41 026 ㊦56 ○
- 『普門院』 早川智明文・写真 さきたま出版会 K289.41 026 ㊦75
- 『小栗上野介一族の悲劇 勝海舟のライバル 小栗騒動及び小栗夫人等脱出潜行、会津への道、踏査実録』
小坂橋良平著 あさを社 K289.41 026 ㊦95 ○
- 『君はトミー・ポルカを聴いたか 小栗上野介と立石斧次郎の「幕末」』 赤塚行雄著 風媒社 K289.41 026 ㊦9X
- 『小栗忠順 第1部 修羅を生きる』 岳真也著 作品社 K289.41 026 ㊦17-1
- 『小栗忠順 第2部 非命に死す』 岳真也著 作品社 K289.41 026 ㊦17-2
- 『小栗忠順従者の記録 幕末遣米使節 名主佐藤藤七の世界一周』 村上泰賢編 東善寺 K289.41 026 ㊦1Y
- 『ほどす10』 上村翠著 K289.41 026 ㊦1Z
- 『小栗上野介をめぐる秘話』 河野正男著 K289.41 026 ㊦3Z ○
- 『小栗上野介 みやま文庫』 市川光一著 K289.41 026 ㊦48 ○
- 『天涯の武士』1之巻～4之巻 幕臣小栗上野介 木村直巳著 リイド社 K289.41 026 ㊦62-1~4 ○
- 『敗者たちの幕末維新 徳川を支えた13人の戦い』 武光 誠著 PHP研究所 K289.41 026 ㊦79 ○
p.119-132 主戦派の主張—小栗忠順
- 『小栗上野介と横須賀』 横須賀市企画調整部文化振興課編 横須賀市 K289.41 026 ㊦7X ○
- 『小栗忠順のすべて』 村上泰賢編 新人物往来社 K289.41 026 ㊦84 ○
- 『最後の幕臣小栗上野介 ちくま文庫』 星 亮一著 筑摩書房 K289.41 026 ㊦88
- 『群馬県風土記』2 歴史と人物 トラベル・メイツ社編集 前橋 煥乎堂 1980 K291 ㊦0Z (2) ○
p.28-29 歴史と人物 小栗上野介、p.101 小栗上野介追捕
- 『我ら見しままに 万延元年遣米使節の旅路』 マサオミヨシ著 平凡社 295.3 ㊦43
- 『万延元年 遣米使節史料集成』 第1巻～第7巻 日米修好通商百年記念行事運営会編 風間書房
558.7 N71 (1)～(7)
- 『武士(おとこ)の紋章』 池波正太郎著 新人物往来社 1990 F I34 ㊦0X ○ p.237-266 明治元年の逆賊 小栗忠順
- 『小栗上野介』 海音寺潮五郎著 国文社 1942 F Ka21.1 3 ○
- 『獺 悲惨なり小栗上野介』 菅蒼一郎著 日本図書刊行会 1998 F Ka59 ㊦83 ○
- 『密偵』 幕末明治剣豪綺談 津本陽著 F Ts73 ㊦92 ○ p.119-146 小栗上野介遺聞
- 『小栗上野の死』 戯曲 十菱愛彦著 第一出版社 1929 K929 J87
- 『Leaves of grass』(Modern Library) Walt Whitman New York Random House 931 W69
p.198-201 A Broadway Pageant
- 『草の葉』中 (岩波文庫) ホイットマン作 酒本雅之訳 岩波書店 1998 931.6 W69 ㊦81-2 ○
p.170-178 ブロードウェイの華麗な行列
- 『斬刑』 中津文彦著 徳間書店 1995 K936 N43 ㊦5Y ○
- 『小説小栗上野介』 童門冬二著 集英社 K939 D85 ㊦2Z
- 『小栗上野介』 星亮一著 成美堂出版 K939 H92 ㊦69
- 『徳川幕府の埋蔵金 小栗上野介忠順の生涯』 生駒忠一郎著 KTC中央出版 K939 I37 ㊦85 ○
- 『幕臣小栗上野介 埋蔵金ゆえに罪なくして斬らる』 木屋隆安著 泰流社 K939 Ki84 ㊦21 ○
- 『罪なくして斬らる 小栗上野介 新潮書下ろし時代小説』 大島昌宏著 新潮社 K939 077 ㊦4X
- 『覚悟の人 小栗上野介忠順伝』 佐藤 雅美著 岩波書店 K939 S86 ㊦73
- 『維新太平記』上・下 小栗上野介の栄光と挫折 清水惣七著 新人物往来社 1988 K939 Sh49 ㊦82-1,2 ○
- 『小栗上野介の秘宝』 典廩五郎著 新人物往来社 K939 Te36 ㊦1Y
- 『小栗上野介』(少年読本 第40編) 勢多章之著 博文館 1901 E-01916
- 『よこすか開国物語 ペリー来航150周年記念』(EWえほん)かこさとし文と絵 新装版 エツコ・ワールド
2003 J210 ㊦39 ○
- 『幕末動乱の男たち 上巻』 海音寺潮五郎著 S-15876 ○ p.215-246 小栗上野介

【雑誌】

『季刊群馬風土記』 第2巻第4号通巻5号 1988年7月号 群馬出版センター編
p. 55-61 消えた小栗上野介父子の首 川島維知

『群馬歴史散歩 第175号 2002.11』 群馬歴史散歩の会編

p. 15-19 開明の人 小栗上野介 村上泰賢、p. 20-23 小栗上野介と権田村 市川八十夫

「商工まえばし」(平成12年4月号～13年3月号) 真説 小栗上野介の生涯(1)～(12) 小坂橋良平

『上州路 第7巻12月号通巻79号』 関口ふさの編 特集：悲運の幕臣 小栗上野介

『上州路 第30巻1月号通巻344号』 関口ふさの編 特集：再び脚光をあびる 小栗上野介

『上州風』8号 2001秋 上毛新聞社[編] p.56-71 特集「小栗さまのいる村」赤塚行雄

『上州風』29号 2008 上毛新聞社[編] p.64-67 特集6「もっと小栗上野介を知りたい」

『文學界 第58巻第8号 2004.8』 文藝春秋[編]

p. 167-189 空っ風赤城山 小栗上野介の最期 野口武彦

『歴史読本 第30巻第18号通巻416号 1985.10』 新人物往来社 [編]

p. 84-93 小栗忠順 幕府の大蔵大臣 小林久三

『歴史読本 第38巻第23号通巻607号 1993.12』 新人物往来社 [編]

p. 84-91 小栗忠順 徹底抗戦論の末の死 菊池久

『歴史と人物 第10巻第10号通巻110号』 p. 272-285 幕臣列伝 小栗上野介 綱淵謙錠

『歴史と人物 第13巻第4号通巻144号 幕末諸藩の戦い』 p.82-87 小栗上野之介を斬る 高崎藩 杉田幸三

『歴史と旅 第14巻第15号通巻192号』 p. 72-77 幕末徹底抗戦派の末路 小栗忠順 長谷圭剛

【新聞】

上毛新聞 平成5年(1993) 「幕末を駆けた男 私論・小栗上野介」 三津間弘

3/5 小栗日記(1)、3/6 小栗日記(2)、3/7 第1部3生い立ち、3/8 第1部4遣米使節(1)、3/10 第1部5遣米使節(2)、
3/11 第1部6遣米使節(3)、3/14 第1部7外国奉行1、3/15 第1部8外国奉行2、3/17 第1部9硬骨漢(1)、3/19 第1部
10硬骨漢(2)、3/21 第1部11徳川絶対主義(1)、3/24 第1部12徳川絶対主義(2)、3/27 第1部13徳川絶対主義(3)、
3/28 第1部14徳川絶対主義(4)、4/15 第2部1栗本鋤雲、4/16 第2部2横須賀製鉄所(1)、4/19 第2部3横須賀製
鉄所(2)、4/20 第2部4近代化施策、4/22 第2部5財政手腕、4/27 第2部6親仏路線、4/30 第2部7政敵・勝海舟
(1)、5/1 第2部8政敵・勝海舟(2)、5/2 第2部9政敵・勝海舟(3)、5/4 第2部10小栗の死(1)、5/5 第2部11小栗の死
(2)、5/8 第2部12小栗の死(3)、5/9 むすび

上毛新聞 「視点オピニオン21」

平成8年(1996)5/11 小栗上野介の首 松本鶴雄

平成11年(1999)12/28 小栗上野介 処刑跡の碑に悔恨の情 唐沢定市

平成11年(1999)2/7 小栗上野介の顕彰 夫人護衛は村人の誇り 村上泰賢 東善寺住職

平成12年(2000)3/11 上野介の造船所 将来を見据えて建造 村上泰賢

平成12年(2000)5/15 上野介の造船所 マザーマシンに感動 村上泰賢

平成12年(2000)7/9 勝てば官軍 権力者が都合よく曲解 村上泰賢

平成12年(2000)9/29 上野介有罪説の誤り 暦を読み間違い矮小化 村上泰賢

平成12年(2000)11/11 上野介と株式会社 交易で国民利福考える 村上泰賢

【インターネット情報資源】

小栗上野介 (東善寺)

<http://tozenzi.cside.com/oguri.htm>

小栗忠順 (Wikipedia)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E6%A0%97%E5%BF%A0%E9%A0%86>

小栗上野介日記及び家計簿 (群馬県生涯学習センター)

<http://www.manabi.pref.gunma.jp/bunkazai/e608129.htm>